

そなえあれば  
うれいなし

# 西淀 防災 Times

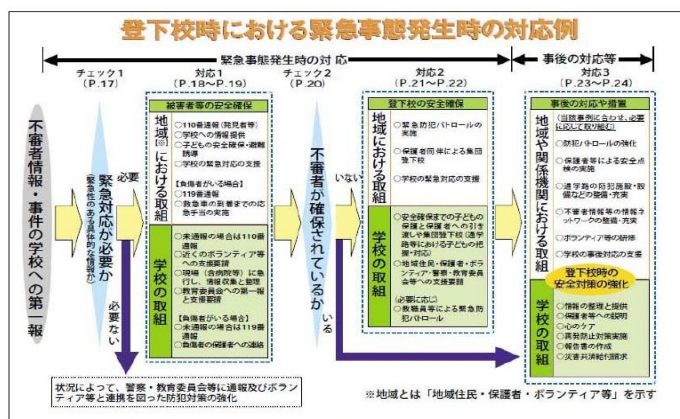
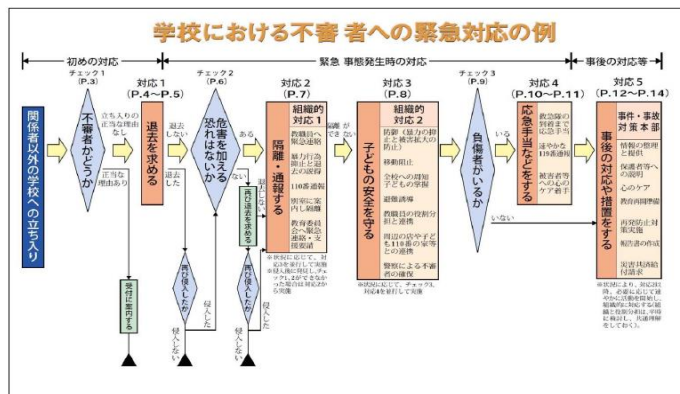
Vol. 7 令和3年11月22日発行

『防災 Times Vol.7』では、『防災 Times Vol.6』に引き続き、教職員向け防犯訓練についての続編をお送りします。今回は、本校での防犯マニュアルを中心に伝えしますので、教職員の皆様は、12月1日の訓練までに一読ください。

## 【緊急対応マニュアルと一次救命処置について】

### その他「緊急対応例」

避難訓練は危機管理マニュアルに基づいて、教職員の安全対応力を高めるために行うものである。また、こうした避難訓練によって、対処の仕方を児童生徒等が事前に経験しておくことは、安全教育的うえでも非常に有効である。



提供：「学校の危機管理マニュアル ー子どもを犯罪から守るためにー」文部科学省 平成19年11月

### 応急手当等について

児童生徒や教職員が負傷した場合には、状況によって救急車を要請する必要がある。その際に、迅速に「119番」に通報するとともに、救急車が到着するまでの間、負傷者の状態に応じて、教職員は速やかに止血、心肺蘇生法などの応急手当を行い、症状が重篤にならないようにしてはならない。そのためには、消防署や日本赤十字社等の協力を得て実技研修を実施し、教職員が応急手当等の技能の習得に努めることが大切である。

### 一次救命処置 (BLS)

ー 心肺蘇生 (CPR) と AED ー

「人が倒れている」近づきその前に

- 周囲の安全を確認する(2次事故防止)
- 負傷者の状態を確認する(大出血の有無など)

- 意識を確認する**
  - 肩を叩いて、声をかける
- 協力者を求める**
  - 119番通報とAEDの手配をお願いする
- 呼吸をみる**
  - 鼻先を上げ、胸とお腹をみて、鼻先と口の呼吸があるかを確認する
  - 呼吸がないようにする
- 胸骨圧迫を30回**
  - 胸の真ん中(乳首を基準線)で垂直に押し下げる
  - 圧迫の深さは少なくとも5cm
  - 圧迫の速さは少なくとも100回/分
  - 圧迫が「強く・速く・絶え間なく」行われる
- できれば、人工呼吸を2回**
  - 人工呼吸をする(顔面を後ろに下げて、鼻を上げる)
  - 鼻をつまんで口を覆い、胸が上がるのわかる程度吹き込む
  - 2回の吹き込みの前に休む
  - 吹き込みが、つぎの吹き込みと重なるとはならない
- メッセージに従ってAEDを使う**
  - AEDのメッセージは、聴き取りやすい声の掛けがある

STEP 1 電源を入れる

STEP 2 「電極パッドを装着してください」

- イラストの上り貼る
- 電極パッドは、皮膚をさせる
- 水濡れや粘り・塗り薬などは取り除く
- コネクターがあるものは差し込む

STEP 3 「心電図を解析中です」

- 傷病者から離れる
- 傷病者から離れる

STEP 4 「電気ショックが必要です」

- 傷病者から離れる
- ショックボタンを押す

STEP 5 胸骨圧迫と人工呼吸の繰り返し

- 直ちに
- 人工呼吸

STEP 6 以降もAEDのメッセージに従う

STEP 7 医師または、救急隊に引き継ぐ

- AEDの電源は切らず、電極パッドは着けたままにする

日本赤十字社  
www.jrc.or.jp

提供：日本赤十字社

職員会議でも簡単に説明はしますが、12月1日(水)の防犯訓練は、突然不審者が校舎内に侵入し、トラブルを起こそうとします。誰が不審者なのかは当日までわかりませんが、教職員の皆さんはそれまでにじっくりと対応策を考えておいてください。どんなことが起きるのか想定できないのが、今回の訓練の目的となります。この訓練までに実際に起こるかもしれないということも忘れないでください。